

三河の昆虫

No. 8 1974年12月

〒448 刈谷市井ヶ谷町
愛知教育大学昆虫研究室内
三河昆虫研究会 発行
第一プリント社 印刷
☎ ◀56▶ ④4463

三河地方におけるトンボ目録 (1974年度)

竹本秀邦

愛知県下におけるトンボは、現在88種で、偶産種も含めると92種になる。筆者は1974年に三河地方において採集または分布確認をした種は55種で、それ以前のものを含めると70種になる。今後この資料をもとにして、分布や生態などを継続的に調査して行くつもりである。

なお、この目録に記した年次は、すべて1974年であり、データの重複するものは省略し、各地域における初記録を記した。

しかし、記録の少ないものは、すべて記載した。

蜻蛉目 (ODONATA)

A 均翅亜目 ZYGOPTERA

イトトンボ科 Agrionidae

1. モートンイトトンボ
刈谷市小提西池, 28-V (2♂2♀); 作手村, 20-VI (3♂1♀); 豊田市, 23-VI (1♀); 豊橋市大池, 26-VI (1♀); その他記録多し。
2. ホソミイトトンボ
作手村, 22-VII (1♂); 鳳来寺, 26-VII (3♂1♀)。すべて夏型であった。
3. キイトトンボ
刈谷市小提西池, 10-VI (2♂1♀); 作手村, 20-VI (1♂1♀); 豊田市, 23-VI (3♂2♀); 豊橋市大池, 26-VI (1♀); その他記録多し。
4. アジアイトトンボ
豊田市, 23-VI (3♂2♀); 豊川市, 23-

VII (1♂1♀); 鳳来寺, 26-VII (3♂3♀); その他記録多し。

5. アオモンイトトンボ
豊橋市大池, 26-VI (5♂4♀); 同3-VII (6♂5♀)。本種は豊橋市大池でのみ発見採集されたが、同池では普通に見られる。
 6. クロイトトンボ
豊川市, 19-V (4♂1♀); 豊田市, 23-VI (2♂); 豊橋市大池, 26-VI (1♂2♀); 茶臼山, 28-VI (3♂); 作手村, 12-VII (4♂1♀); その他記録多し。
 7. セスジイトトンボ
豊橋市大池, 26-VI (9♂10♀); 同3-VII (4♂1♀); 豊川市, 23-VII (1♂)。
本種は、豊橋市大池においては、もっとも普通に見られ、個体数もおびただしいが、その他の地域ではあまり多くない。
 8. オオイトトンボ
刈谷市小提西池, 13-V (2♂1♀); 足助町, 15-VI (5♂1♀); 豊橋市大池, 26-VI (1♂); 作手村, 12-VII (1♂)。どの地域でも個体数は少ない。
- ##### モノサシトンボ科 Platycnemididae
9. グンバイトンボ
作手村, 12-VII (4♂)。生息地、個体数共に極めて限られる。
 10. モノサシトンボ
刈谷市小提西池, 10-VI (2♂1♀); 豊川市, 16-VI (8♂5♀)。生息地では個体数が多い。

アオイトトンボ科 Lestidae

11. ホソミオツネイトンボ
茶白山, 26-V (1♀); 田口, 2-VI (♂4♀); 足助町, 15-VI (1♀); 作手村, 20-VI (♂3); 同22-VII (1♀)。
12. オオアオイトトンボ
豊川市, 16-VI (1♂1♀); 作手村, 12-VII (♂2); 稲武町, 8-VIII (♂3); 同23-VIII (♂5♀)。
13. コバネアオイトトンボ
刈谷市少掬西池, 3-VI (1♂1♀)。同地以外の地域では見られなかった。同地における本種は普遍的である。7月上旬から, 9月いっぱいまで見られ, 最盛期は8月である。

カワトンボ科 Calopterygidae

14. ハグロトンボ
豊川市, 16-VI (1♂); 同23-VII (♂6♀); 豊橋市蛇穴, 26-VIII (1♂1♀)。
15. アオハダトンボ
作手村, 12-VI (♂2♀); 同12-VII (♂5♀); 同22-VII (♂3♀)。作手村では, 7月上旬にもっとも多い。
16. ミヤマカワトンボ
柿平, 18-V (♂2♀); 茶白山周辺, 26-V (♂2♀); 田口, 2-VI (♂3♀); 鳳来寺, 26-VI (♂2♀); その他記録多し。
17. カワトンボ
柿平, 27-IV (♂3♀); 三河川合, 28-IV (♂4♀); 三河大野, 1-V (♂2♀); 長沢, 17-V (♂3♀); 豊川市, 19-V (♂2♀); 茶白山, 25-V (♂1♀); 田口, 2-VI (♂2♀); 作手村, 12-VI (1♀); その他記録多し。

B 不均翅亜目 ANISOPTERA

ムカシヤンマ科 Petaluridae

18. ムカシヤンマ
長沢, 17-V (1♂); 同20-V (1♂1♀); 同8-VI (♂3♀); 同9-VI (♂2♀)。
同地域のみ発見採集できた。

サナエトンボ科 Gomphidae

19. ヤマサナエ
長沢, 17-V (♂2♀); 豊川市, 19-V (1♂1♀); 足助町, 15-VI (1♀); 堅山, 20-VI (1♀); その他記録多し。

20. フタスジサナエ

刈谷市小掬西池, 14-V (♂2)。

21. ダビドサナエ

柿平, 27-IV (♂3♀); 三河川合, 28-IV (♂2♀); 長沢, 17-V (♂4♀); 茶白山, 26-V (♂2♀); 田口, 2-VI (♂3♀); 足助町, 15-VI (1♀); その他記録多し。ヤマサナエと並んで低山地から山地にかけて普通に見られるサナエトンボである。

22. ヒメクロサナエ (東北日本型)

茶白山, 25-V (1♀)。: 鈴木友之氏採集

23. オジロサナエ

豊川市, 2-VI (1♂); 鳳来寺, 29-VI (♂2♀); 同9-VII (♂2♀); 同26-VII (♂1♀); 新城, 29-VII (1♀)。豊川水系の低山地帯に分布するようで, その他の地域では見られなかった。

24. アオサナエ

長沢, 24-V (1♂); 同28-V (1♂)。

個体数は少ないようである。

25. オナガサナエ

鳳来寺, 9-VII (1♂); 同26-VII (1♂)。

個体数は少ないようである。

26. コオニヤンマ

長沢, 9-VI (1♂1♀); 豊川市, 15-VI (1♂); 作手村, 20-VI (1♂); 鳳来寺, 26-VII (1♂)。

27. ウチワヤンマ

長沢, 8-VI (1♀); 豊川市, 23-VII (1♂)。

オニヤンマ科 Corduregasteridae

28. オニヤンマ

作手村, 12-VI (1♂); 新城市, 29-VII (1♀)。各地に少なくない。

ヤンマ科 Aeschnidae

29. サラサヤンマ

長沢, 8-VI (♂2)。

30. カトリヤンマ

鳳来寺, 29-VII (1♂2♀); 新城市, 10-VIII (1♂); 豊川市, 28-VIII (1♀)。

31. ギンヤンマ

豊川市, 19-V (1♂1♀); 豊橋市大池, 23-VI (♂3); 新城, 29-VII (1♂1♀); その他記録多し。

32. クロスジギンヤンマ

豊川市, 19-V (♂4♀); 同2-VI (♂3)

- ♂)。
- ヤマトンボ科 Macromiidae**
33. コヤマトンボ
長沢, 8-V (5♂1♀); 足助町, 15-V (1♂); 鳳来寺, 9-VII (1♂1♀); その他記録あり。
34. オオヤマトンボ
豊川市, 2-V (1♀); 同15-V (1♂); 新城市, 29-VII (2♂)。
- トンボ科 Libellulidae**
35. ハラビロトンボ
刈谷市小提西池, 13-V (2♂1♀); 豊川市, 19-V (4♂2♀); 作手村, 20-V (1♂1♀); 豊田市, 23-V (1♂2♀); 新城市, 29-VII (1♂1♀); その他記録多し。
36. シオヤトンボ
柿平, 27-IV (1♂); 三河川合, 28-IV (1♀); 三河大野, 1-V (2♂1♀); 長沢, 18-V (1♂1♀); 茶白山, 26-V (1♂1♀); 田口, 2-VI (1♂1♀); 足助町, 15-VI (1♂); その他記録多し。
37. シオカラトンボ
長沢, 17-V (1♂1♀); 豊川市, 2-VI (2♂); 作手村, 22-VII (1♀)。各地にもっとも普通に見られる種である。
38. オオシオカラトンボ
長沢, 9-VI (1♂1♀); 豊田市, 23-VI (1♂); 豊川市, 21-VII (1♂); 作手村, 22-VII (2♂); その他記録多し。
39. ベッコウトンボ
刈谷市小提西池, 13-V (1♂)。同地でのみ見出されたが、個体数は少ない。
40. ヨツボシトンボ
作手村, 20-VI (7♂)。発生期間は比較的短いようである。天気が悪いとあまり飛ばない。
41. ショウジョウトンボ
豊川市, 19-V (2♂); 足助町, 15-VI (2♂); 豊橋市大池, 26-VI (2♂2♀); その他記録多し。
42. コフキトンボ
刈谷市小提西池, 10-VI (1♂); 豊橋市大池, 26-VI (2♂2♀)。
43. ミヤマアカネ
鳳来寺, 9-VII (1♂2♀); 作手村, 22-VII (5♂3♀); 茶白山, 27-VII (2♂2♀); 新城市, 29-VII (1♂); 稲武町, 8-K (2♂1♀); その他記録多し。
44. アキアカネ
豊田市, 23-VI (3♂1♀); 作手村, 12-VII (1♂); 鳳来寺, 26-VI (2♂); 茶白山, 27-VII (2♂1♀); 新城市, 29-VII (1♂); 稲武町, 23-K (2♂1♀); その他記録多し。
45. ナツアカネ
作手村, 22-VII (1♂); 新城市, 29-VII (1♀); 鳳来寺, 29-VII (1♂); 稲武町, 8-K (1♂); 刈谷市小提西池, 8-K (1♂)。
46. ノシメトンボ
作手村, 12-VII (2♂4♀); 同22-VII (5♂2♀)。同地域では普通に見られ、個体数も多いが、その他の地域では見出できなかった。
47. コノシメトンボ
豊川市, 21-VII (1♂); 作手村, 22-VII (6♂4♀); 茶白山, 27-VII (2♂2♀); その他記録多し。
48. マユタテアカネ
豊田市, 8-VII (2♀); 作手村, 12-VII (4♂2♀); 豊川市, 23-VII (1♂1♀); 鳳来寺, 26-VII (1♂1♀); 新城市, 29-VII (1♂); 刈谷市小提西池, 11-K (1♂); その他記録多し。各地に普通。
49. マイコアカネ
刈谷市小提西池, 5-VIII (1♂1♀); 同11-K (2♂)。同池でのみ見出できた。
50. ヒメアカネ
豊田市, 23-VI (1♂1♀); 作手村, 22-VII (3♂1♀); 鳳来寺, 26-VII (4♂1♀); 新城市, 29-VII (2♂); 豊川市, 10-VIII (1♂); 稲武町, 8-K (4♂2♀); その他記録多し。一般にはマユタテアカネと混棲する場合が多く、個体数は本種の方がかなり少ないが、稲武町では逆に本種のみ生息し、個体数も非常に多い。
51. オオキトンボ
鳳来寺, 26-VII (1♀)。個体数はかなり少ない様である。
52. コシアキトンボ
豊田市, 23-VI (2♀); 豊川市, 23-VII (2♂1♀); 新城市, 29-VII (1♂)。平地から低山地の池や沼に普遍的に産する。
53. チョウトンボ
豊橋市大池, 26-VI (5♂4♀); 刈谷市小

提西池, 5-VII (多数目撃)。最近あまり見られなくなった種であるが, 上の二つの地域では多産する。

54. ウスバキトンボ

豊川市, 23-VII (2♂1♀); 鳳来寺, 26-VII (1♂); 新城市, 29-VII (1♀)。平地や低山地に普通に見られ, 群れをなす。時としてかなりの個体を目撃することも少なくない。

55. ハッチョウトンボ

長沢, 8-VI (1♂); 堅山, 20-VI (3♂2♀); 豊田市, 23-VI (2♂2♀); 作手村, 12-VII (2♀); その他にも記録あり。各地の休耕田や湿地帯に少なくない。

以上55種が筆者の今年一年間の記録である。先にも述べたように, このままでは言うまでもなく不十分な成果であるが, 今後共一層より深い調査を続け, 十分なものにしていきたいと思う次第である。今回はその第一歩として, 三河地方におけるトンボの記録, 第一報を報告したに過ぎない。

【参考文献】

1. 石田昇三 1969 原色日本昆虫生態図鑑 II トンボ編 保育社
2. 松井一郎 1971 日本産蜻蛉分布表
3. 安藤尚 1973 佳香蝶 2P 14

私 と 昆 虫

—その7—

渡 辺 一 雄

私の小学校時代に, 横山桐郎著「虫の絵物語」という本がでた。昭和の初めのことで, 当時は子供向きの手頃な虫の本などはほとんどなかった。この本が, 虫好きの私に大きな影響を与えたことはまちがいない。数十年たった今でも, 高山チョウやトリバネチョウなどの絵や平凡な虫についての巧みな文章が私の脳裡にかなり鮮明に残されている。



小学校時代の前半は, もち竿でセミをとったり, ギンヤンマつりであけくれた。後半は八番線の針金にかんれいしゃの袋をつけてチョウとりにも熱中した。中学校へ入ってみると, 同級生に二人の虫好きがいた。一人は斎藤偏理(はじめに甲虫を集め, 後にガの研究をした)と川瀬英爾(カメムシを好み, 後に金沢農試に勤めた)。この両君とは, 毎日こん虫談話に花を咲かせた。今とちがって, 浜松市内の方々に林や草原があったので虫も多かった。日曜日は自転車や軽便鉄道で近くの山地へ出かけた。ギフチョウ・オオムラサキ・コムラサキを発見したり, オオトラフコガネ・キョウトアオハナムグリ・ウシカメムシを見つけて驚喜した

ことがつい先頃のように思われる。クロコムラサキのなまえは, 九州大学の江崎梯三博士のところへ送ってはっきりしたもので, 極めて珍しいチョウだと折紙をつけられた感激はたいへんなものだった。昭和9年, 浜松第一中学校で恒例の北アルプス登山があった。希望者9名が2人の先生に引率された。私はまだ見ぬ高山蝶にあこがれて参加した。生徒の中に現信州大学教授の小林国夫さんがいた。沢渡までバス, それ以後は歩いた。五千尺旅館にはまだランプしかなかった。槍ヶ岳・大天井岳, 燕岳を通して中房温泉へ下った。上高地では, ネットをしまってくださいと注意された。断崖にからだをのりだしてとったミヤマモンキチョウ, 雷雨の中を追い回してやっととったタカネヒカゲなど, 当時の情景が昨日のこことのようにはっきりよみがえってくる。加藤正世氏のはじめられた「昆虫趣味の会」は紙質, 内容共に抜群であった。私は全国の同好者と盛んにチョウの交換をした。江崎博士からは台湾の高山蝶, 中原和郎博士からは南米の蝶を頂いたが, 今も書斎の額におさめられている。「ZEPHYRUS」という蝶専門の雑誌を知った。会員は500人足らずで, 年4回発行された本は, ぜいたくなほどの豪華版であった。私が戦時中や戦後の苦しい時代もへこたれず, 今なおこん虫に情熱を燃やし続けることができているのは, チョウの世界的権威者になられた白水隆博士を学生時代に知り, 絶えず激励と指導をうけたおかげだと思っている。